

令和5年度（第5回）葉山町総合計画審議会 会議録

- ◇ 開催日時 令和6年2月2日（金） 10時から12時まで
- ◇ 開催場所 葉山町役場3階 議会協議会室1
- ◇ 出席者 臼井会長、加藤委員、近藤委員、富樫委員、八木委員、高梨委員、福安委員
- ◇ 欠席者 陸永委員、早川委員
- ◇ 事務局 町田政策財政部長、佐野政策課長、大屋主任、山田主任
- ◇ 傍聴者 1名
- ◇ 議題
 - 1 開会
 - 2 議題
 - (1) 第五次葉山町総合計画策定について
 - ・基本構想骨子案
 - ・基本計画構成案
 - (2) その他
 - 3 閉会
- ◇ 資料
 - 令和5年度第5回葉山町総合計画審議会 次第
 - 基本構想・基本計画の構成について (資料1)
 - 基本構想骨子案 Ver. 2 (資料2)
 - 基本計画構成案（2025～2028） (資料3)
 - 人口推計結果について (資料4)
 - 第五次総合計画策定スケジュール案 (資料5)
 - 子育てに関する人口関連資料 (資料6)
 - 令和5年度第4回葉山町総合計画審議会議事録（案）

1 開会

事務局（大屋主任）

皆さんこんにちは、お忙しいところを集まりいただき、誠にありがとうございます。定刻になりましたので、これより令和5年度第5回葉山町総合計画審議会を開催させていただきます。毎度のお願いで申し訳ないのですが、発言の際はマイクのスイッチをオンにさせていただきようよろしくお願いたします。それでは、臼井会長よろしくお願いたします。

臼井会長

おはようございます。昨日は暖かかったのに今日はとても寒い日ですが、いつものように活発な議論が進んで審議ができればと思いますのでよろしくお願いたします。本年度もう1回あるようですが、今日は特に基本構想について重点的にディスカッションしたいと思います。それでは今日の会

議の成立状況について事務局からご報告ください。

事務局（大屋主任）

本日の審議会ですが、出席委員は5名となります。1名遅刻のご連絡いただいております、今のところ5名の出席です。葉山町総合計画審議会規則の第5条第2項の規定により、過半数以上の出席があるため、本審議会は成立していることをご報告させていただきます。

臼井会長

続いて傍聴についてですが、今回、傍聴希望の方がいると聞いていますが、入室していただきたいと思っております。

傍聴者 1名入室

続きまして本日の資料の確認を事務局からお願いします。

事務局より配布資料の確認

2 議題

（1）第五次葉山町総合計画策定について

臼井会長

それでは議題に入っていきたいと思っております。議題（1）「第五次葉山町総合計画の策定について」の中に基本構想骨子案と基本計画構成案があります。まず骨子案の方から事務局に説明をいただき、その後、基本計画構成案の方へ移りたいと思っております。それでは基本構想骨子案について事務局からご説明ください。

<基本構想骨子案>

事務局（大屋主任）

それでは資料に基づきご説明をさせていただきます。基本構想骨子案の説明資料は、資料1、資料2、資料4、資料6を一括で説明させていただきます。

前回の審議会では、基本構想骨子案を示して意見を賜りました。その後も、特別委員会にも報告して、そこでも意見を頂戴しました。いただいた意見の多くは、構成や順番または立て付け等に関してで、基本構想の方向性については概ね了承いただいたと認識しております。今回は、いただいた意見を踏まえまして基本構想骨子案の時点修正を行い、新たに基本計画の構成案を作成しました。それでは資料1をご覧ください。資料1については、前回との変更箇所を新旧対照表の様な形で作成したのになります。主な変更点をいくつか記載してありますが、基本構想については、大項目の構成順を変更しています。構成を入れ替えた箇所については、表中の矢印で図示してありますが、町民の思いをベースに基本構想を作成したということを知りやすく伝えたいということで、今回は冒頭に「町が未来へつないでいく想い」を置いておりましたが、こちらを後ろへずらし、「2040年に目指す町の姿」と続く順番としました。この2つの項目は町民アンケートや町民ワーキンググループの結果を踏まえて形作ったものですので、ここを連続させた方が伝わりやすいと思われ、順番の変更をかけました。

続いて、新規の大項目として、「1 計画の基本的事項」を作成しました。前回の骨子案では、わかりやすく読みやすいというポイントを意識して作成したものの、シンプルにするあまり逆にわかりづらいといった意見もいただきましたので、改めて序論の内容に近いのですが、策定の趣旨や計画の構成期間を記載する項目を作成しました。もう1点は、基本計画構成案を資料3で作りました。前回、基本構想骨子案において、「葉山町／世界にとって重要なテーマ」としてSDGsについて示していましたが、基本計画へ移動しています。葉山町にとっての意味合い／取組というのは、行政の取組内容が多く含まれていることから、行政計画である基本計画の内容として基本構想から基本計画に移動したものとなります。これは、後ほど説明させていただきます。

その他新規の項目や更新をかけたところについては、今回の資料で下線を引いておりますので、お読み取りいただければと思います。資料1については以上で、続いて資料2をご覧ください。

資料2、こちら資料1で説明した内容を踏まえ、主に前回と比べて加筆修正をしているところを説明させていただきます。まず、「2040年に目指す町の姿」のイラスト図ですが、こちら前回までは、愛知県常滑市のものを参考画像として掲載しておりましたが、今回は町の地形等をベースに描いたポンチ絵へ変更しています。イラストの内容として踏まえていきたい要素を吹き出しとして入っていますが、実際のイラストには吹き出しは入れない予定です。あくまで最終のイラストにつきましては、来年度、予算をお認めいただきましたら委託にて作成をしたいと考えています。今回あくまで葉山町のイメージ図として作成したものがこちらとなります。

1 ページ、こちら先ほど申しあげました「1. 計画の基本的事項」のパートとしてまとめたものとなっています。

2 ページ、「2. 計画の構成期間」ですが、この文章の途中、実施計画の記載のところ、前回では構成期間等の記載をしていりませんでした。今回は、「実施計画は年度ごとの予算事業と連動し毎年見直すこととします」という文章を加えさせております。

3 ページ、「3. 計画の位置付け」です。本計画自体は2040年を目指す計画ではありますが、ちょうど町政100周年を迎えた年、2025年に計画がスタートします。これまでの100年とこれからの100年、当然、計画期間は2040年までですが、そういった歴史を踏まえ、かつ、未来を見据える計画として位置付けられたらという思いもあり、こちらのパートを加筆いたしました。

4 ページ、「2. 葉山町の概要」のパート、前回と比べ大きな加筆修正はしていませんが、まず人口のところ、関東大都市圏内としての葉山町として、この関東大都市圏にはどこの市町があるのかわかりづらいといった意見もいただいたので、国勢調査の地図を加えています。ここの白に塗られていないところが関東大都市圏と言われる自治体です。

5 ページ、「経済産業」のパート、こちらには、湘南国際村について新たに加筆しました。コロナ禍を経てテレワーク等の状況もあるのでは、という意見も前回いただきましたが、実際にそういった実態はあると思うのですが、統計等の客観的なデータがありませんでした。そこで今回、湘南国際村について加筆いたしました。

7 ページ、「データで見る葉山町」のパート、こちらは前回ご意見をいただきましたが、ランキングの読み方を加筆しています。あとは民間のランキング、住み続けたい町ランキング等は注釈の文章で記載をする、といった形で修正しています。

8～10 ページ、「3. 町が未来へ繋いでいく想い」のパートと、「4. 2040年に目指す町の姿」の

パートが続きますが、今回、町民の声や思いの表現として、テキストマイニングの図を入れていません。4つは多いかと思っはいますが、こういったデータがあるというものを図示させています。

11 ページ「2040 年に目指す町の姿」として3つの目標とコンセプトを書いています。その最上段の部分、前回は「新たな地域コミュニティ」としていましたが、ここを「自分らしく、人と繋がれるまち」としました。ここは、前回、高梨委員からもご意見いただきましたが、ウェルビーイングを踏まえた考え方というところで説明させていただいたキーワードがメインコンセプトに近いのではないかといった意見もあり、修正をさせていただきました。

12 ページ、「5. 2040 年を見据えた考え方」のパート、「1 ウェルビーイングの要素を取り入れたまちづくり」と題して、前回の「2040 年を見据えた考え方」の内容を記載しております。多少を加筆していますが、特に書いてあることは前回と大きな変更はありません。13 ページ、「2 バックキャストを意識した政策・目標の立案」を新たに加えました。ここは近藤委員からご意見いただきましたが、今回の総合計画策定にあたりましてはバックキャストを意識したいと従前よりお話しをしており、それを改めて表現したものとなります。計画に通定する思いや要素といったものを「1 ウェルビーイングの要素を取り入れたまちづくり」として、その手法の1つとして、「2 バックキャストを意識した政策・目標の立案」という形で今回お示ししました。

14 ページ、「2040 年葉山みらい日記」ですが、こちらの日記の内容は、まだ更新ができていませんが、前段として葉山みらい日記を説明する文章を加筆しています。

17 ページの「6. 踏まえるべき社会情勢」のパートにも同様に前文を入れていますが、これらは先ほど申し上げましたが、あまりシンプルにすると逆にわかりづらいといった部分について、それを解消するために加筆しているところです。

18 ページ、「7. 将来人口」のパート、こちらは前回の審議会では第四次後期基本計画の際の人口推計結果を載せていましたが、今年度委託しているコンサルタントから推計の速報が出ましたので、数字の差し替えをしております。こちらは住民基本台帳人口ベースの推計値で 2018 年と 2023 年を基礎とした推計となります。詳細は後ほど資料 4 で説明しますが、推計結果としては、前回の推計に比べて人口減少のスピードが速くなっている結果が出ています。また、文書の 2 段落目以降を加筆しています。「1 将来人口」のところの 2 段落目、「本計画における将来の人口に対する基本的な考え方については、日本全体で人口が減少していく中であって、本町においても人口が減少していくことは受け入れつつも、子育て世帯の転入が多いという本町の特徴を維持すべく、教育・環境など本町の長所を伸ばし、引き続き、子育ての場として選んでもらえるような町を目指します」といった文章を加えました。人口に関して具体的な目標値を掲げるのは非常に難しいと思っはいますが、町の姿勢として、こういったものを示せればと考えています。

資料 2 の基本構想骨子案については以上となりますが、ここで将来人口について、資料 4 でご説明させていただきます。今回の人口推計の概要としては、前回に引き続きコーホート要因法を用いておりますが、基準とした人口の年次が違います。先ほど申し上げましたように、今回の推計は 2018 年と 2023 年を基準といたしますが、前回は 2015 年と 2020 年を基準としています。そして前回結果との比較のグラフを見ていただきますと青いグラフが今回の数値、そしてオレンジが前回、総人口については、少しずつ減少スピードが速くなっていくということが見て取れるかと思っはいますが、今回の目標年次である 2040 年では前回より約 500 人、2060 年には約 1000 人、前回に比べて減少して

います。2023 年を基準として、前回推計と比較すると 2040 年には約 15%、2060 年には約 12%減少しています。こちらの詳細は次の 2 ページ以降になります。

「年齢区分別推計人口との比較」、一番上が「生産年齢人口」です。2040 年までは前回と今回で大きな差はありませんが、2045 年以降は前回よりも減少していることがわかります。2060 年には 2023 年比で約 20%多く減少している結果です。続いて「年少人口」になります。年少人口が前回との違いが一番明白な部分となりますが、見てのとおり青い部分が 2025 年から前回と比べて減少しているということが見ております。2023 年比で 2040 年には前回に比べて約 85%、2060 年で約 51%と急激に減少しています。この要因といたしましては、ここ数年の出生数の減少が大きく影響していると考えられ、第 2 回審議会でご説明させていただきましたが、以前の葉山町の年間出生数は約 200 人～230 人、そういったアベレージでしたが、ここ数年は 120 人～130 人と急激に落ち込んでいます。この影響が年少人口に、引いては全体の人口に大きな影響を与えていると考えられます。生産年齢人口が 2045 年から少しずつ減少スピードが速まっていますが、この年少人口の減少がそのまま生産年齢人口に成長し、人口減少がスライドしていっていると考えられます。

続いて、次のページ「老年人口」、老年人口は 65 歳から 74 歳といった幅になりますが、見てのとおり 2045 年までは前回の推計と差がありませんが、そこからの減少スピードが緩やかになっています。2060 年時点で前回よりは 500 名ぐらい多いといった推計結果となっています。

そして最後「後期高齢人口」、こちらは 75 歳以上の人口になりますが、こちらは、前回に比べて単純に少しずつ多くなっているというのが見て取れると思います。

これら今まで年齢区分別推計人口を見てきましたが、「高齢化率」については、2040 年には 40.8%、2060 年には 45.7%となる推計結果です。前回の推計では 2040 年には 39.6%、2060 年は 40.3%という結果でしたので、両年次とも前回の推計に比べて高齢化率が増加していますが、特に 2060 年につきましては 5%以上の増加が見られました。この要因といたしましては、先ほど同様に、年少人口が大きく減っていることによると考えています。

4 ページ、「人口ピラミッドの比較」、左が今回の推計のピラミッド、右が前回の推計のピラミッドです。こちらは今までご説明させていただいた年齢区分別の人口推計を合わせた結果表の様なものですが、特に 2060 年の人口ピラミッドを見ると、年少人口のボリュームが明らかに逆三角形に近いというか、かなりスリムになっているというのが見て取れると思います。

資料 4 の説明は以上となりますが、最後に本日の追加資料 6 を簡単に説明いたします。こちら「子育てに関する人口関連資料」で、これは以前の審議会でご説明した本町の社会増減の特徴としては、30 歳から 45 歳の世代、それに伴う子ども世代として 0 歳から 14 歳、これらを合わせた子育て世帯の転入が多く、その反対に 15 歳から 29 歳までの若年層の転出が多いという話をいたしました。この資料は実際の子育て世帯の転入の実績に関する資料として作成いたしました。2 つ項目がありますが、「1 出生数と 6 歳人口の比較」をご覧ください。これは、1 年間の出生数と生まれた子の世代が 6 歳になった時の人口を比較した表ですが、暦年の一番上に「H13→H19」と記載していますが、これは年度ではなくて、その 1 年間を表しており、平成 13 年の 1 年間に生まれた子とその子の世代が 6 歳になる年が平成 19 年ということです。出生数の一番上、200 という数字がありますが、こちらは平成 13 年の 1 年間に生まれた子の人数、その隣の 6 歳人口は、平成 19 年 1 年間の 6 歳の人口で 299 人、つまり 6 歳になるまでに 99 人増えたということです。他の数字の詳細は読み取りいただければと思い

ますが、隣には、それを表したグラフです。こちらのグラフ、青が出生数でオレンジが6歳人口です。ありがたいことに、本町は常に出生数より6歳人口の方が多という結果、子どもの転入が多いという結果が出ています。また、出生数と6歳人口の増減の動きはほぼ連動しています。青いところの凹凸と連動してオレンジのところも凹凸があるというのが見て取れるかと思えます。人口の維持という観点からは、出生数というものの重要さがよくわかる結果かと思えますが、人口減少社会において本町だけ出生数を増やすというのはなかなか難しいことでもあります。ただ、こういった近年出生数が減少している、特にここ数年見ると、表のグレーアウトしている左の部分ですが、152人から徐々に少なくなっているここ数年の傾向が続くのであれば、今後6歳人口にしても減少していくのではないかとということが予測されます。

続いて「2 子育て世代の社会増減、転出入の実績」、こちらは子育て世代の転出入が本町全体の社会増の主な要因となっている実績を改めて示したものです。あくまで仮定ではあるのですが、30歳～45歳を親世代として、それに伴う子育て世代を0歳～14歳として、この2つの世代を合わせたものを子育て世帯と仮定した場合ですが、これの転出入の実績と全年齢の転出入の実績を比較したものです。こちら一番上の平成21年の子育て世代の転出入の合計は406とありますが、その右の全年齢転出入の合計が266です。子育て世帯の転出入より、他の年代の転出が多いので、子育て世代の転出入の合計より全年齢分の方が下がってしまうといったことです。ですので、こちら本町の社会増減の大きな要素として、子育て世代の転出入によって概ね社会増という結果になっていたというのが見て取れます。ただ、直近3年間のデータを見ますと、子育て世帯の転出入が減少傾向にあることがわかります。令和3年だと367、令和4年は222、令和5年は139といった形で減少に転じており、それに伴って全年齢転出入合計も185、57、-33という結果です。今まで社会増が概ね続いていた中において令和5年度は、社会減に転じてしまっている。出生数も減っていく中、この世帯の転出入がこういった形で減少に転じてしまうとより一層人口減少のスピードに拍車がかかり、今回の推計のように年少人口の減少が進んでいってしまう可能性があるのではないかと考えております。

こういったデータもありまして、今回の基本構想の人口推計のパートにおいては、「子育て世代の転入が多いという本町の特徴を維持すべく、教育・環境などの本町の長所を伸ばし、引き続き子育ての場として選んでもらえるような町を目指します。」といった文章を書き足ささせていただきました。資料が多くて大変恐縮ですが、基本構想骨子案についての説明は以上となります。

臼井会長

説明ありがとうございました。最初の議題である基本構想骨子案について、資料1、資料2、それから資料4と6を使って説明いただきましたが、どこからでも結構です。意見がありましたら発言ください。

福安委員

ものすごくデータドリブンで素晴らしいと思いましたが、資料6で子育て世代の転出入の合計がすごく著しく多い年とそうでない年とかなりバラつきがあるのですが、これって何か原因があるのでしょうか。かたや1年間で406人増えた年もあれば、平成26年みたいに105人しか増えていない

年もあります。このすごくクリアなバラツキをどの様に理解するのか少し不思議に感じました。

事務局（大屋主任）

その要因分析まではできてはいないのですが、ただ、本町の人口のピークが住基ベースでいうと平成 24 年になるので、そこから減少に転じているということがあります。平成 21 年の 406 人はそれまでの人口増があった時代の子育て世代の転出入にはなっている。そこからの 25 年以降は減少傾向に転じて、全体の人口が減少傾向に転じている年になっているというところはあるのですが、主な要因まではまだつかめていません。

福安委員

減っているのだけど、例えば平成 29 年 30 年みたいに 234、270 って突然増えましたが、令和 3 年は、ひょっとしたらコロナの影響なのか。そうでもないのか。367 みたいに突然増えている年もある。その要因を解き明かすことができると、ひょっとしたら何が子育て世代に実はアピールしていた等、わかるかと思った次第です。ちょっと探れるとよいのですが。

事務局（佐野課長）

ありがとうございます。おっしゃるように社会的な要因もあれば、今、ご意見をいただいて分析はできていないのですが、そんなに大規模な開発が平成 21 年にあったとは少し考えづらいと思っています。その時の新築戸数や、土地利用でミニ開発の様なものが多かった等、そういった部分も要素としてあるかもしれません。都市計画課にデータがあるので、付け合わせをしてみたり、あるいは社会的な要因、先ほど言ったコロナがあったとか、また、特に住宅がたくさんある海岸沿いでは 3.11 の後はなかなか土地利用が進まなかったという話も記憶していますので、できる範囲で分析をしてみたいと思います。

臼井会長

他の統計で、例えば就労人口みたいな話は、例えば 30 人 50 人規模の事業所が 1 個できるとははっきり変動してしまうというのが葉山の特徴なのですね。だから、例えば、老人ホームなどが 1 個できると、それだけで就労人口がはっきり統計上突出してそこだけポンと数字が上がることもあるので、完全に追っかけきれぬかどうかは分かりませんが、可能な範囲で調べてみてください。

事務局（大屋主任）

承知いたしました。ありがとうございます。

高梨委員

今のところのつながりなのですが、転出入数が落ち込んでいるという説明がありましたが、実際にここでは転入の数を問題にするべきなのではないでしょうか。転出の数が変わらなくなるなら人口は維持されるという形もあるのかと思います。そうなった時に福安委員が言われたように、原因が分からないと、例えば世代交代の関係で 1 戸建の土地が多く分割されて住む場所が増えた結果、

新たに人が住めたという形だと、もう限界が来ていると考えた場合、サービスでそれが取り戻せるものなのかという、そもそもの開発をもっとしなくてはいけなくなってしまうという住居環境の課題があった場合には、いくら町の方がサービスを充実させると言っても難しい限界があると感じました。

また、今までのところでも何回か言っているのですが、「子育てしたくなる町」というキーワードが気になっているところがあって、少しその話もしてもいいでしょうか。今回のウェルビーイングをキーワードとして挙げていくときに、自己実現ということが1つの流れとしてあると思うのですが、子育てしたいという主体は誰か、と考えると親ですね。親の実現を表している言葉なのですが、実際には学び、成長する子どもを主体として捉えた表現の方が良いと考えています。それは、例えば、他の地域ではどのようなものがあるかと思って見たのですが、茅ヶ崎市では「学びあい、育ちあう」、習志野市では「子育て、子育て」というところもありました。まず学ぶ主体が、あるいは育つ主体が子どもだけに限定したことをここで挙げている上に、それを親の目線でやりたいと書いているということがウェルビーイングを考えた時に、果たして親世代側に立って書くべきなのかがすごく気になりました。むしろ、住んでここで育つ子ども達がここに続けたい、先程、10代、20代の転出があるという話がありましたので、その子達が町にいたい、町を私達も創っていきたくていこうということと連動していく1つのキーワードとして、それが出ると良いと思いました。それと共に、先程の話に戻りますが、子育て世代の転入を1つの一義的な目標としていくのではなく、むしろいろいろな世代の方に転入してもらいたいと考えた場合に、葉山の教育財としての価値は非常に大きいとされていて、「学び続けたい」、「育つ」ということの主体が子どもに限定しなくて良いと私は感じています。「子育て」というキーワードでそこをまとめてしまうのが非常にもったいないという思いがあり、何度か発言しているところです。その転入はどこを狙っていくのかというキーワードに、おそらくこの子育てが入ってきているのだろうと思いましたので、併せて付け加えて意見として申し上げます。

臼井会長

ありがとうございます。「子どもたちが生き生きと育つ町」みたいな言い方もありなのですね。だから子どもに主体を置くのなら、「子どもたちが健やかに育つ町」とか「生き生きと育つ町」とか、「子育てしたくなる町」だと、子どもを持つ世代の親へのメッセージになってしまうので、そこは考えどころですね。どちらを前に出した方がよいかは、例えば、子どもたちにみんなのことを考えてこの計画はできているんだよと、葉山町の小中学校の子どもたちに計画を説明するのであれば、子どもたちが生き生きと育つとか、健やかに育つという町主体としての子どもたちの方に目を向けてあげた方がいいという気はします。親に対しても、子どもを意識して子どもが育つことを意識した町政を進めるという趣旨になるので、効果は同じだと思うので、主体は子どもたちの方がいいかもしれない。それ以外にもありますか。委員の発言に他の趣旨が入っていますけれども。

高梨委員

そうすると前の方で子どものアンケートを取ってそれを町の方に活かしているというところもつながるのではないかと考えています。

臼井会長

そうですね。それも含めて事務局から何か説明はありますか。

事務局（佐野課長）

ありがとうございます。確かに素直にこれまでの葉山町の背景を考えた時に、子育て世帯の転入というのが葉山町の人口増につながってきたので、今、これを目の当たりにした時に、やっぱり子どもをどこで育てるかを考えるのは親だという気持ちがあまりにも前面に出すぎていたと思います。今、話を聞いて果たして確かにそうなのだろうが、どこの目線で表現していくのか、どういう形が訴え方として適当なのかという部分であれば、当然その背景には、子どもたちが生き生きと学べるそんな町だからこそ選んでもらえるという話なので、そこは、大変貴重な意見だと思います。どの目線で相手にどう伝えるか、もう一度検討させていただきます。ありがとうございます。

事務局（町田部長）

佐野課長の言うとおりで、かなり力を入れ過ぎた結果が表出して、高梨委員から以前から言われたところだと思います。総合計画をちょっと俗っぽい言い方で大変失礼なのですが、実を取りたい、効果を出したいというところで、前回申し上げたのですが、第四次総合計画では人口のところで3万3千人を維持していくことを目指しますという記載があるものの、第五次の基本構想の中では前回までは町の方針を全く触れていなかったのが、今回初めて入れたところです。大屋が細かく説明したとおり、出生率を上げたいのですが、町単独でできるものではなく、国策としても手をこまねている中で、いかに子育て世代の転入をとという実を取る上で非常に重要な部分という思いが我々非常に先走ってしまったところがありました。今、高梨委員が言われたことと内容は全く同じだと思っていますので、主体は親ではなくて、子どもたちが葉山町において如何に育ちやすくなるかという視点で表現は、是非、今日の意見を参考に次回、示したいと思っていますので、お時間いただければと思います。ありがとうございます。

高梨委員

あと、先程、生涯教育のことも言ったのですが、そちらは住み続けたくなくなるとか好きとかの方に教育の観点も入れていただければと思っています。以上です。

臼井会長

ありがとうございます。あと、いかがでしょう。

加藤委員

ちょっと難しいかもしれませんが、先程、佐野課長が「人口が増えない」と言われたのは、確かに私、たまたま建築関係で宅地が殆どないということで、特に社会増で増えないのだろうと思うのです。今後も空き家が増えていくであろうと言われている中、そんなに増えはしないとは思いますが、空き家対策を考えて総合計画の方に人口増ということで考えたら如何かと、私の意見としてそ

の様に思いました。

事務局(佐野課長)

ありがとうございます。ご意見を受け止めました。おっしゃるとおり、加藤委員は大変建築の方に詳しいので、町の中でこれから開発しようとする平らな土地は、ほぼ町の中になく状態だと認識しています。ただ、団塊の世代の方がいよいよ後期高齢を迎えているので、この後、多分、建物や土地が回転していく時代がきて、当然、空き家という意味で発生するのですが、そのまま空き家として放置されないよう、そこに新しく人が引っ越ししてきてくれる、そんなよい循環ができるように1つの方策、空き家の対策として、うまく市場に流れるような仕組みをどこまで行政としてできるか。まだここで具体はないですが、その様な部分を意識しながら、総合計画に何かうまく循環できるような部分を含められればという気持ちで考えています。ありがとうございます。

事務局(町田部長)

あまり事務局の発言の時間をとってはいけないのですが、手短に。空き家と直接関係ないのですが、先程の高梨委員の発言にもまたつながってきますが、子育て世帯の流入をさせるためには、ソフトの福祉施策の充実だけ、どこまでできるかという問題があります。開発の問題もあると思いますが、トータル的にやっていくために、都市計画マスタープランの改定が実は総合計画の改定より半年ほどずれています。ソフト政策はもちろん力を入れていき、今、小中一貫教育から端を発した小中一貫校の整備をこれから議会にも説明しながら進めていくことももちろんやります。子育て政策の扶助費等も伸びていますし、それは力を入れていきますが、まちづくりの観点からも、子どもたちの教育環境が整う生活ができるようなまちづくりというところでは、当然、この総合計画の基本的な考え方にかなう都市計画マスタープランを策定していきたいと思いますので、そこは是非、承知いただければと思います。よろしくお願いします。

富樫委員

先ほどのところに少し戻ってしまって申し訳ありません。子育てしたくなるまちを子ども主体にさせていただくのは非常にありがたいという気持ちでいっぱいです。そうすると、中の語尾もだいぶ変わってくると思います。例えば、小中一貫教育が受け入れられるのではなくて、子どもたちはそこで小中一貫教育の中でどう育つかという視点でそれぞれの語尾を含めて検討いただけるとありがたいと思います。文部科学省の学習指導要領も、今まで教員目線で書いてあったものが、子どもを主語にして全部書かれ始めています。ですから、そういったところを考えていただき、こちらの方も子どもを主語にして書き換えていただけると、非常にありがたいと思います。

臼井会長

大変かと思いますが、総合計画は町民みんなの計画なわけで、行政が町民にしてあげる計画ではないということを考えて、つまり今、話があったところの意識を徹底してください。これは、この後の基本計画の中身をこれは各課に書いてもらうことになると思いますが、そこも同じです。だから、行政が主体で計画ができているというのは、それが必要な部分もありますが、できるだけ住んでい

る方が主体である計画ということ意識して文章を書く努力をするようよろしくお願いします。

高梨委員

他のところになりますが、いいですか。1つは11ページのところ「自分らしく、人と繋がれるまち」として3つ挙げている中で、1つ目はさっきお話したような形です。

2つ目に「ここに住んでいると自己実現がすごくできる」ということが入るなど、「ウェルビーイング」がもう少ししっかり入り込むような書き方だとよいと思いました。

そして、3つ目の「好きと言いたくなるまち」のところの最後が、「いつかは葉山へ」という言葉になっていますが、いつかというだけでいいのか、それともよく遊びに来てほしいのではないのか、学びたくても遊びたくても葉山に行きたいという形で、もっと観光とか学習の場としての葉山ということもここに入っていくのもあってよいのではないかと、思います。もちろん町の目線で作ることはありますが、他の人達から住みたいと思われるだけじゃなくて来たいと思ってもらえるというのもあってよいと感じました。

それが5ページ「商工業・観光」のところともつながる内容になると思いますが、5ページのところだと夏の海水浴シーズンのことが書いてありますが、今、山にも結構人が来ており、自転車で来られる方も多いうことで、そのあたりデータが出せるのかどうかは難しいかもしれませんが、葉山の臨海部だけでなく、山間部も含めて非常に豊かな観光資源があるということをも1つ書いてもよいと思いました。

あと、「そのほとんどが日帰り観光客」となっているのですが、一方で後ろの方で「別荘地葉山」ということも謳っていて、その別荘だとおそらく長期滞在のイメージではないかと思うので、その2つの整合性をどう考えているのか、5ページと6ページの両方を見ていて、別荘地としてはもうなくなってきているという想定でよいのか、それともこれからも長期滞在というところを入れていくべきなのかというのがありました。大学等の寮や研修施設の様なものだったら長期滞在も考えられるかと思いますが、日帰り観光客となっているというのが日帰りでよいのかというのがありました。

事務局（大屋主任）

日帰り観光客が多いという統計は、確かにあります。現時点でのデータで、別荘利用がどれ位あるのか等、その辺りを探ってみないとわからない部分がありますが、おそらく減っているのではなかろうかとは思ってはいます。昔の大きな別荘地が新しい住宅に変わってきているという事実がありますので、その辺りは文章の方の、特に歴史のところ、今は別荘地の時代から住宅の時代に変わってきている等の表現を、少しここではデータを見てですが、データがあるのであれば加筆したいなと思います。ありがとうございます。

高梨委員

そうすると、日帰りの観光をこれからも維持するイメージなのか、あるいは長期滞在の人を狙っていききたいという形なのか、というのも、1つの町のあり方として検討してもいいと思いました。先程、リモートワークでこちらに長期滞在されるというような方も、将来像として入れていくので

あれば書いてもよいと思いました。

臼井会長

検討して工夫できるところはよろしくをお願いします。

近藤委員

5 ページの町の魅力で、やはり葉山の「海」、自然環境がありますが、ここに「山」を入れるべきだと思っていて、非常に個人的な話で恐縮ですが、町外から訪れていろいろ相談されることもあるのですが、数字としてエビデンスがあればと思いますが、是非、探っていただけたらと思います。重ねてですが、南関東最大の前方後円墳が2基あるというのが実は逗子と葉山にまたがっているのですが、非常に大きな資産であって、今年4月から一部公開がされます。言われたように、山へ訪れる方が増えてくるでしょうし、今後の町づくり考えるときに1号墳、2号墳どうするの、もしくは山のハイキングコースの整備なのか、その活用みたいなこともあると思うので、長期的な計画の中に山の魅力を入れるのは私も賛成です。書きぶりは任せますが、意見として申し上げておきます。

八木委員

11 ページの「好きと言いたくなるまち」のところで、人口を増やすという目的であれば、前回住み続けたい町ランキング、よく「2年連続1位です」といろいろな会合で話を聞くのですが、この住み続けたい町ランキング1位になった具体的な理由がわかれば、そこを好きと言いたくなる町の下の記事のところに書き加えてもよいと思います。

臼井会長

ありがとうございます。長所は書いてもよいのではないかとということですね。

事務局（大屋主任）

住み続けたい町ランキングのプレス資料を見ると、設問ですとか、それがどれくらいの点数があるか等あったはずなので、そこがどういう細かさなのかわかりませんが、そこで読み取れるのであれば加筆できればと思います。

福安委員

資料6がとても面白いと思って私なりに分析していたのですが、親世代の転出入数をよく見ると、平成28年より前は、30～34歳が大体40%～50%ぐらい転入してきて、平成29年以降は20%以下だったりゼロだったりするのです。平成26～28年はあまり微妙にトレンドがない3年間で、この3年間何かしらのトレンドチェンジがあって平成29年以降、30～34歳が転入しなくなったというのがこのデータから読み取れるので、この平成26～28年はどの様なことがあったのか、何故、平成29年以降は、30～34歳に魅力のない転入先になったのかがわかると、この町としても何か対策立てやすいと思った次第です。

臼井会長

ありがとうございます。

富樫委員

「葉山みらい日記」のことも話してよろしいでしょうか。みらい日記の最初の「子育てしたくなるまち」のところで「はやま科」という言葉があるのですが、実は教育委員会も小中一貫校教育を目指してだいぶ動きが早くなっており、現在は「はやま科」という言葉はあまり使っておりません。違う方向にシフトしていくと思います。これが今、学習指導要領上の総合的な学習の時間の中での「探究的な学習」という、そういう表記に変えつつあります。これはもう9年間を見通してずっとそれでいけるだろうというところを含めた形に変えていますので、申し訳ないのですが、「はやま科」でない言葉に変えていただけるとありがたいのと、もう1つ42歳男性と記したところ「地域の集会場」という言葉があります。小中一貫校は、実際に先ほど部長からの話にもありましたように、そういうハードな部分のところも含めてですとほしい複合的な施設になるという推測ができますが、現段階でこれを書けるかどうかというあたりは施設担当の方の関係もあるので、若干この辺りの言葉は、教育委員会と調整させていただけるとありがたいと思います。

あと最後もう一点、16ページの8歳小学生の日記に「地産地消って習ったけど」というところ、まさにそのとおりなのですが、そこに地産地消って実はエンカルの中身でもありますので、できたら「地産地消とってエンカル給食の1つでと習ったけど」というのはエンカル給食というワードもここに入れていただけるとありがたいと思っております。以上です。

事務局(佐野課長)

ありがとうございます。富樫委員は日頃教育の方にいらっしゃるので、変化にきちんと対応できていないこと申し訳ありません。このみらい日記は、まだ各課と調整ができていない叩き台の状態です。基本計画の書きぶりも、各セクションから戻してもらい次回の審議会の中ではお示ししたいと思っておりますが、それまでにこちらのみらい日記についても各課の方に適当でない表現等確認し、その辺は必ず調整させていただきます。

臼井会長

よろしく申し上げます。次年度へ入っての次のステップでは各課のチェックが入りますので、その時にもでも審議会で発言があったことは意識しておいてください。

高梨委員

今のみらい日記の話で、同じようなことなのですが、15ページの上から2人目の47歳、「まずは病気になることが一番大事」という言葉がありますが、今は多分「病気になるっても安心して住める」等、ウェルビーイングの観点からいったときには、心の面とか、そういうことも含めて大事なポイントになると思うので、町が発行するものに「病気になるのが大事」というメッセージがあるのは、少し違うと感じました。「病気になるために」という、こういうこと書き方に少し気をつけておいていただけると嬉しいと思いました。

あと違うところなのですが、3とか4のところ言葉のマッピングして出していくっていうところの絵はとてもわかりやすいのですが、それに関しての説明文が本文の中にないので、例えば8ページの絵の上のところ、「町民の皆様に通ずる町の将来への思いを見て取ることができました」とはなっているのですが、どういうことがここから見て取れたのかということの説明が実はとても大事だと思います。同じものを見て解釈がいろいろあり得ると思うので、ここからどのように読み取ってそれが次の文章の「第四次計画の将来像と共通している」と解釈したのかということの整合性、妥当性も含めて確認が必要かと思いました。例えば、「まち」というのが一番大きい言葉で出ているのをどう解釈するかというのはすごく難しいと思います。市や区とかそういう形ではない町単位がいいと思って本当に「まち」って書いているのかということや、ただ葉山町という言葉なのでとりあえず入れたということなのか、上の「まちづくり」とここに書いてある「町」は文脈としてどう違うのかということなどを本当は解釈していかないと、「テキストマイニング」を見てわかるよねというのは、結構危険な書き方かと思いました。今後のおそらく加筆のところになると思いますがその分析結果についての内容が3ページ、4ページ両方とも入っているとよいと思いました。特に4ページの方は、アンケートの年齢対象が異なるということが書いてあるのですが、それがみんなに共通していることだけを一番後ろにまとめて書いているのか、あるいはそれぞれの世代が本当にみんな同じ意見だったのかということなどが入っていて、例えばここで若者世代が出してきた言葉を私達はキーワードとして使っていると押し出すと、また違う見え方がすると思います。

この基礎データをどう使うのかということを知っていただけたら嬉しいと思いました。同じように図として出している最初のイメージ図のところも、これをどう読むのかがとても難しいと感じていて、これから新しいのになるというお話ではあったのですが、例えばこの図の中に葉山町役場はあるのか、どういう立ち位置なのかというのが私は読み取れなかったのと、センターにあるものが結構大きな建造物のように見えるのですが、マンションなのかアパートなのか役場なのかということの読み取りというのは結構難しいと感じたので、そういったところで図の解釈についてもう少し明確なサジェッションがあるとよいと感じました。

臼井会長

ありがとうございます。私も発言していいですか。1ページの下から7行目ソサエティー5.0とありますが、これは内閣府の要望で行政要望ですよ。皆が知っているのか。それで先程の計画の話に戻りますが、計画は誰が読むのか。町民のもの、町民の財産の1つというところまで言っているかどうか分からないけど、少なくとも町民のものであることは間違いなく、それでどの位の人に読んでもらえるように書くのかという話が次にあり、少なくとも高校1年生は読めないといけない。それから、高齢者や例えば子育て中のお母さんも含めて町民の人たちが読めないといけない。ソサエティー5.0が内閣府の科学技術基本計画の中の言葉だという説明もなく、ここにポンと出てくるというのは、つまりそういうことを配慮してないという話なのでここは考えてください。

それから例えば5ページの経済産業の農業、漁業のところ「農林業センサス」という言葉がポンと出てきますが、農林業センサスと言われても普通の人はわかりません。農林業に関する国の統計だという説明ぐらいしか私もできませんが、そのレベルでいいのか、それもわからないかもしれません。だからこれもここにポンと入れてしまうのは、行政上の用語を無反省に使っているという

厳しい言い方になるけど、そういう話になってしまいます。

さらに、資料1で「ウェルビーイング」、「バックキャストिंग」、「VUCAの時代」、この辺りどうするかずっと悩んでいたのですが、「VUCAの時代」と「バックキャストिंग」は確実に経営学に近い用語だから、それはつまり、中学校3年生あるいは高校1年生位に知ってもらわなくてはいけない言葉なのかと言った時に、例えば、「バックキャストिंग」も「VUCAの時代」も言い換えが可能です。「ウェルビーイング」は、以前みんなで議論というより私が散々言いましたが、12ページにあるウェルビーイングの話でこういう議論をしている人達もいるけれども、大元は前にも言いましたけど、世界的な経済学者のアマルティア・センが提唱した言葉で、その背景はインドの貧困地帯に暮らす貧しい生活をしている人々を見て、この人達のために経済学に何ができるかって議論をして、インドの社会をどう変えていけばいいのか、貧しい人のために社会をどう変えていけばいいのかっていうことから発想をして、その人達が持っている力を社会の中で最大限発揮できるような社会がいいのではないかと。そのために何が大事かという教育が大事だと。例えばインドもそうだけど、世界の中でイスラム圏もそうです。女性で教育を十分受けられない人がたくさんいて、男性型の社会で極めて限られたことしかやらせてもらえない男性型の社会参加がほとんどできない状況に置かれている、学ぶことすら制限されている女性たちがいて、その人たちを見たときにその人の可能性を最大限生かすためには教育が大事だということをアマルティア・センは言った。そのためのキーワードとして「ケイパビリティ」、その日本語訳は潜在能力と普通は訳しますが、潜在能力理論みたいなことを提唱してノーベル経済学賞をもらったわけです。その議論はウェルビーイングの議論の最初の段階の議論で、非常に大きな議論なのですが、この前説明してもらった時の日本で行われている議論というのはまだ大きなトレンドになってないのではないかと。だからウェルビーイングを使うのはいいのだけど、使うのであれば、センの考えていた話をベースに置いて、それを受けて町は、例えばみんなが幸せを享受できる社会として、みんなが思う社会の中で力を発揮して、社会参加してこういうことができる社会を作っていきたいという記述の仕方がいいのかという話です。

同じ話でいけば、バックキャストिंगは、みんなにあるべき姿みたいな話から逆算する話で、バックキャストिंगの話と不確実性の時代に基づくVUCAの話は、後ろから最終形から逆算してものを考えていくっていうのと、状況の変化に応じて柔軟に対応するのは、実は逆方向の議論なのです。だから、これだけがいい話ではなくて、それをうまく状況に合わせて使い分けることが大事で、例えば手前のところで状況に流されながら施策を進めてしまうと、最終描いた目標と違うところへたどり着いてしまいます。だから、ちゃんと最終目標は意識しておきましょう。でも、例えばコロナみたいな特別なことが起きれば、それはその時に感染症が流行っている年間かは全然違うことが起きても仕方ありません。でも、それはVUCAの時代の議論で、それは状況に合わせて組み合わせることが前提なので、あまりこだわりすぎないほうがよいのと、少なくとも読む人のことを考えればカタカナ用語で議論しない方がよい。

それから15ページのところで、「まずは病気にならないことが一番大事」という話。これ私もふれていませんでしたが、こう書くと病気であることは普通、一般的に私たちは病気であるのはよくないことだと思いますが、既に病気の人がいるわけで、また高齢になれば、多くの方が生活習慣病になっているわけで、そういう人達にとってこう書くことは、「健康であることはどうだ、大事だ」という言い方は成立すると思うけども、「病気にならないことが一番大事」という話になると「本当

か」という話になってしまうと思います。

それから 18 ページの将来人口の「コーホート法」、これは人口の推計をする時に使う統計手法なのですが、多分日本語があると思います。コーホート法と書いた時、少なくとも高校 1 年生はわからないと思います。工夫してください。それから資料 4 ですと、そこももう少し丁寧に「コーホート要因法」と書いていますが、コーホートという言葉ではなくて、別の言い方が多分あると思うので、別の言い方をすると伝わらないのなら、そのページの下の方に注釈をつける等、注釈で後ろにまとめてというよりは、読む人にとって楽なのは、ページの下にアンダーラインを引いた上に下に説明を入れるっていう手法の方が読みやすいです。私が見て気がついたのはその様なところです。

17 ページのところも言い出すとありますが、ポストコロナ社会と世の中では言われるのですが、よくわかりません。定義がないのです。元へ戻れば中学校 3 年生ないし高校 1 年生で読んでわかること。それは 75 歳位、後期高齢に入るか入らないか位の私も、もうすぐそこに入るわけですが、でもその位の一般の町民の方が読んでわかること、あるいは、子育てで大変な思いをしている方たちが読んでわかることが大事だと思います。そこを意識してください。

高梨委員

構成のことですが、今回、資料 1 の説明、丁寧に見せてくださりとてもわかりやすかったです。こちらを見つつ先生の話も聞きながらですが、計画を立てた方法の話、例えば今のバックキャストの話が 5 番のところにありますが、それが 3 番 4 番より後にくるのでわかりづらいという気もして、例えば 1 番の後にこういう時代だけどバックキャストもしているし、臨機応変な考え方の両方を取り入れてやっていますという話があるとよいかと思いました。前から読んでいくと 3 番 4 番を読んだ時に、町民の声だけで作っているように読めました。そのあたりの計画と方法の位置づけが前にあった方がよいのかと思いました。ただ、一方で、できた計画がずっと後ろになるのも悲しい気もして、先に 11 ページのイラストの絵が出てきていて、なおかつ 11 ページにある自分らしく人と繋がれる町、これが葉山の今回の計画です。というのがバンと最初にあって、これを作ったのはこういう形なのですという説明が後ろについていくような意見があって、その証拠になるデータがあって、これをどういうふうに理由づけしていっているのかというように見えてくると読みやすいと感じました。実際には、おそらく計画を立てるにあたっては当然 6 番や 7 番の内容も入っているはずなのですが、4 番のところだけを読むと、町民の声だけで作っているように見えるというところが、構成として少し気になりました。以上です。

臼井会長

町民の声がベースになるのはよいと思います。でも町民の声をいただいたものをどの様に総合計画を作る時の素材がそこに含まれている。その素材に必要なものを味付けも含めてしてどう料理したかという料理の方法みたいなことでしょうか。

高梨委員

おそらくその方法の中に 1 番の「今の葉山町の実情を見ました」、そして「みんなの町民の声も聞きました」、「これからの将来のことの分析もしました」、「それでこれを作っています」ということ

があると思うので、その流れが見えるような形だとよいと思います。

事務局(大屋主任)

ありがとうございます。

臼井会長

トータルで感想としては、最初の議論から考えたらだいぶ前進をして面白い総合計画の基本構想になると思います。ある意味、形として議論を呼びますが、内容に関してはとても面白い提案になっていると思うので、目指している方向は否定しなくてよいと思うし、それからその方向でより分かりやすくということでの意見だと理解していただいてよろしくお願ひしたいと思います。

事務局(町田部長)

今、会長からお優しい最後のエールを送っていただいたと理解をさせていただいて、基本構想の案作りというタイミングでは大詰めのところに来ております。今日、この会議に出ると、非常にたくさんありがたい宿題をいただくので、出る前に我々構えていました。予想していたとおりに、沢山の宿題を出していただいたのですが、まとめてお話をしてしまうと、総合計画は、行政が責任を持って町民のために計画を作らなくてはいけないということがどうしても前に出てしまうのですが、皆様の意見を毎回聞くと、作ること自体は、行政が作るのではなくて町民が作る計画なのだということはどうしても置き去りになっているので、主語が誰か等、分かりやすく作るためにという分かりやすくの考え方のスタートも行政の頭になっているので、そこを最後のところで集約してもう一度見直すところはしっかり見直したいと思います。

用語の使い方も置き換えができるのかどうか、それから逆に言葉を使わないで図やイメージで使っているところにとっては捉え方が人によって違うので、そこにあまり差が生じないようにするためにどうしたらいいのかというところは今日いただいた意見を参考に、もう一度我々で修正を図っていければ、と思います。ありがとうございます。

もう1点だけ、だいぶ戻ってしましますが、観光の捉え方なのですが、前回計画の作り込みの時、私はこの部署にいなかったのですが、葉山町の観光は難しいです。どうしても観光は、町の中では1つの悪として捉えられるところもあり、交通渋滞、観光ごみをどうするのか等、存在悪の様な捉え方をされる方も中にはいる中で、住み続けたい町としては、我々も力を入れてこれから進めていこうと思っているのですが、「来てみたい町」というのは、どのような方に来てもらいたいのか、「どのような施策を打っていくのか」は、非常にいろいろな思いを持っている方がいるので、ここは基本計画の作り込みのところになってくるとは思います。産業振興課を中心にいろいろ議論をしながら、また作り込みを考えていきたいと思っています。現行の総合計画の基本計画の観光のところでボリュームも少なく、きっと苦慮したのだらうと思っているので、ここは真剣に考えていきたいと思っています。また皆様の意見をいただければと思いますよろしくお願ひします。

臼井会長

先週の火曜日、某所で横浜中華街の取りまとめをやられている方と30分位雑談をする機会があ

りました。中華街は、今、食べ歩きができる肉まんみたいなものが売れていて、人がものすごく来るのだけど、中華街全体は売上が落ちているそうです。それは、中華街に来るお客さんの消費行動が変わったがゆえの話らしいのです。今、中華街ではそのような話がありますが、鎌倉の小町通りでもそれに近い話になってしまっています。だから、どこまで観光でどういう日常生活、観光のお客さんと町民の方が日常生活を送るのかというデッサンが必要です。そうしないとある部分、オーバーリズムみたいな話で議論されている場所もあるわけで、そうならないような中で、どうやって観光で外から来る人と地域社会が共存できるのかというところは、議論としては難しいですから、よろしくをお願いします。

高梨委員

観光という目的をもう少し精査していくとよいという気もしていて、例えば、生涯学習の観点から、豊かな地形だったり自然だったりを学びたいという人を誘致するようなプログラムが入っていて、その中で葉山の食を一日食べてもらうということもできるはずなので、どういうターゲット層にどういう観光を提案できるのかというところは、検討するべきところだと思います。

臼井会長

きちんと議論すると、これだけで大変な話ですが、ありがとうございます。それではもう1時間半経過しましたので、前半の基本構想の骨子案についてのディスカッションはこのくらいにしたいと思います。今日の話を受けてまた事務局でいろいろ修正していただけるとと思いますので、また確認をどこかの時点でさせていただければと思います。次に、基本計画の構成案について、資料3に基づいた説明をお願いします。

<基本計画構成案>

事務局（大屋主任）

資料3「基本計画構成案」は、今回は中身というより、こういった構成を考えていますといった形の資料となります。

1 ページ、「1. 基本計画の体系」のパートは、今回は基本構想に体系を掲載していましたが、基本構想基本計画それぞれに体系を掲載するのは若干重複感があると感じていたため、記載を今回の様にしようと考えています。ちなみに、今は行政分野①行政分野②としていますが、何かよい名称がないかなと思っています。

2 ページ、「2. 行政分野①における分野別政策」のパートは、行政分野①における分野別政策としてどういった内容が記載されているか、表の読み方、次のページ以降に行政分野の内容が書かれてくるので、説明書的なものを置こうと考えています。

次のページからは、各課に依頼した基本計画、今、各課に基本計画調書といった形で投げており、その様な内容を掲載していく予定です。実は、各課からの回答も集まっていますが、まだ集めた段階で調整というものができていませんので、まとまり次第随時、記載させていただき、次回の審議会からは少しずつ基本計画の内容について皆様にお示しして意見いただければと思っています。

7 ページ、「4. SDGs（持続可能な開発目標）との関係」のパートは、こちら資料1の際にも説明

しましたが、このページは前回までは基本構想に記載をしていました。葉山町にとっての意味合い、取組というのは行政の取組みというのがかなり多く含まれているため、行政計画の色が濃い基本計画の内容といたしまして、基本構想から基本計画へ今回移動をしています。2期目までの基本計画については、SDGsの目標年次が当然含まれていますので、そこに関しては、しっかりと取り組んでいく姿勢を示せればと考えています。基本計画については、こういった構成として、この後に資料編で各行政計画の一覧や、審議会委員の名前や、策定までの経緯といったものが続く構成で、今後、基本構想、基本計画をまとめていきたいと考えています。資料3については、以上です。

臼井会長

資料3の基本計画構成案。まだ中身はこれからですが、枠組みだけ説明をいただきました。結構大事なところは、基本構想と基本計画のこれで枠組みが案として出るわけですが、もう一回確認ですが、基本構想の方で話があったように、実施計画は各年度の予算編成に委ねるということで、これをある意味ではペーパーベースで、例えば、先に5年間の計画に伴う基本事業みたいなものとして書き込むのではなくて事業項目は書くけれども、その裏付けの予算まで初めから設定をして、ということにならなくなるというところですが、そのことも含めて、基本計画の案について意見いただければと思います。ここも確認をしておいた方がいいと思うのでいかがでしょうか。あるいは、今もうすでに各課に投げていると思うので、ここから軌道修正で大きなペーパーベースの調書の変更は難しいかと思いますが、少し議論できればと思います。

高梨委員

最後にSDGsの図が出るとのことでしたが、例えば関係する絵を各ページに入れるみたいなイメージはあるのですか。

事務局(佐野課長)

基本計画の各項目にSDGsのものを書くかどうかは正直決めていなかったです。今日、意見をいただいて、基本計画が4年ごとのパーツに分かれるので、30年までは記載するのもありかと考えておりますので、また内部で検討して審議会で返答いたします。ちなみに高梨委員は書いたほうがよろしいという意見でしょうか。

高梨委員

もしなかったらこの4が何だろうとなるのかというところだったので、あるのであれば、強く関係するところにはこの絵が入っていて、その絵の詳しい説明はこのページですという説明が最初にあるとよいと思います。

事務局(佐野課長)

ありがとうございます。

臼井会長

入れても全然おかしくないですね。あるいはSDGsをどう意識して計画ができているのかという、基本計画レベルでどう意識しているかがあれば分かります。あと、いかがでしょう。

高梨委員

もう1つ別のことを聞いてもいいですか。前の時にはゴールがこういう達成目標があるということを出すというイメージで言っていたと思いますが、今回、それはないのでしょくか。具体的な数字等は出さずにいくというイメージでいいのでしょうか。

事務局(佐野課長)

おそらく今、高梨委員が言われたのは、前回の第四次の時に目指そう値の様な数値でという話があり、この審議会の中でもいろいろ意見いただいています、数値目標があった方がいいと言いつつ、全てに当てはめようとする、立てづらなものもあるという話があったので、今回は指標を、数値のものをおかないという方向で思っています。ただ実施計画のレベルで、いわゆる各事業におけるアウトプットみたいなもので、そこにこの事業をやるとこういう効果があるというのが見えるような指標は考えたいと思っています。この4年間でこの項目でここを目指そう値にするというのは、今は、立てない方向でいこうと思っています。

高梨委員

数値はもちろん難しいと思いますが、バックキャスティングをしているという以上は、達成できているのかどうかというところの、何かしらの指標が各項目にないと、基本計画と大きな総合計画との確認をどうとるのかというところが分かりづらいたと思ひ質問しました。

事務局(町田部長)

そこはちょっと組織内でもまだ統一が図られていなくて、多少私も課長との意見を異にするところがあり、計画である以上は進捗管理をどこかでしなくてはいけないという行政的な考え方と言われてしまうかもしれないですが、確かに私が課長の時にもこの審議会での数値目標ってどうなのか、慎重に数値目標は置くべきだと臼井先生から言われたように記憶しております。とはいえ、少しここも内部で何らかの形で適切にバックキャスティングを採用するのであれば、その道を行んでいくそのスピード感であるとか方向が間違っていないかという確認の術が必要なのかと思っていますので、検討させていただければと思います。

高梨委員

例えばSDGsを達成するというを述べているのであれば、これが1つの目標指標になるかと考えたので、それが紐付いていくというのが、中途目標がもしこれであるならば、というふうな形っていうのもあるのかと。そのあたりの審議がもう少し聞けるとうれしいと思ひました。今後、お願いいたします。

臼井会長

数値目標化できないものであっても、質的にこういうことを目指すというのは、書けるものは書いた方がいいと思います。それについて、例えば「抽象的だけどこういうところまで来ています」あるいは「ここまでしかできませんでした」という作文はできるはずなので、それもないと、そもそもその項目を置いたことがどうなのかという話になってしまいます。総合計画の中で位置付けをして施策を置くということは、施策が適切に行えたのか、それが目標に対してそもそも適切だったのか、1年単位で見直さなくても、4年単位位では見直しをした方がいいから、そこは質的なものであっても一定の何かは書いていただかないといけないと思います。

高梨委員

今のことが SDGs のところ、7 ページに書いてあるものとの整合性がちゃんと取れていなくてはいけないと思っていて、ここに書いてあるのは抜けがあってはいけないと思います。7 ページに入っているのに、どこの部署も担当していないということがあってはいけないと思いますし、例えば逆に 13 の目標のところだと温室効果が 46% の削減という数字を出しているところは、やっぱりその数字に対してどれ位なのかということは言っていくべきだと感じました。

臼井会長

SDGs があることで各課がやっていることを積み上げないと、SDGs に対しての数値がどう動いたかが把握できないというのがあります。それをどうするか考えてみないと、特定の課の中で処理ができるのは、その課の施策、つまり施策として位置づけたものを1つ見て、その施策が SDGs の何番に該当していて、その施策がどのくらいできたのかできないのか、SDGs の関係でどうだったかという議論でいいけれども、例えば二酸化炭素の排出量を減らしますみたいな話がもしあると、それは単独の課で測定できません。各課の排出量を積み上げないと処理できないので、そのようなものはどうするのか。だから数値目標はあった方がいいのだけど、SDGs との関係でどういうふうに目標を置いてどういう数値を把握するかというのは少し考えてください。簡単ではなさそうなところもありますが、施策から見て数値目標を設定して、それに対してどう対応できたかというのを出すのは、そんなに難しくないと思います。だけど、SDGs で町行政全体のことを考えて何々をどうしようみたいな話になったときに、一気に処理が難しくなります。

高梨委員

本当はそれがすごく大事なことで、縦で割っていくことではないということが、こういった目標の意義だと思います。ただ SDGs だけをやればいいわけでもないと思うので、これだけではないです。

事務局(佐野課長)

この7ページの葉山町にとっての意味合い取組みという話ですが、実は各課からまだ情報を集める前に、政策課でこんな記載が考えられるという部分で書いているので、今、各課から一度提出いただいたものの中で、もう一回この分野について各課での取組みと意味合いの整合性が取れるような形で整えることができるのではないかとこののを想像しました。あと、もう1点は基本計画のペ

ージ数を減らして、分野を大きな方向性で捉える基本計画にしたいので、第四次であるような具体的な取組み、単位施策みたいなものを今回は置かず、そういう意味ではその大きな方向性に対して方向性は分かったと、それをその方向性に向かってどう進められたかということの評価しなければいけないという話をされていると思っています。先ほど申し上げた大きな方向性に向かってこういう事業を実際に実施計画に取り組んだという話で、それをこの施策に対しては、こういう事業をやってこういう成果を得られたというような整え方ができないかと考えていました。ただ、実施計画の事業の評価ではなく、この大きな方向性についてどういう評価指標を持つかというのをこの基本計画の中に書き込むべきだという意見ということですね。

臼井会長

そういうふうにして基本政策を考えているのですね。それは、事業の枠組みぐらいの形ですね。

事務局(佐野課長)

そうです。その様な意味では、今、臼井会長が言われるとおりのので、それぞれの課で大きくここはやっていくという話についてまとめていくので、それに対してこの施策についてはここまでやるというところまでは記載しておいて、それを図る何か指標みたいなものを基本計画の中に書くべきだという意見ということでしょうか。

臼井会長

少なくとも進行していった時に単年度のものは予算案がどういうものかということで、それを町民の方にも示してもらいたいのだろうし、それから議会でも議論してもらいたいけど、でも少なくとも町民の方の意見を踏まえて計画を作ったものについて、その計画の進行管理は、多分この審議会にかけて少しは見るのでしょうか。その時に基本施策の中にどこまで具体的かは別にして事業の主要なものは入れてくれなかったら、施策の方向だけしかここでは書きませんとしたら、そもそもその後の意見交換は成立しないことになります。

事務局(町田部長)

基本計画と実施計画の線引きをどこにするのか、構成についてはまだ正直、私以下のところで整理も十分できていないところですので、一度持ち帰らせていただかないといけません。私が少なくとも言えるのは、先程の繰り返しになりますが、計画である以上、PDCAは回さないといけないので、チェックする術、道具がないと回らないと、少なくとも私は考えていますので、それを前提に町の組織の中で議論をさせて、次回、報告させていただきたいと思います。

臼井会長

結構大事なところなので、それはしっかり議論してください。それは基本計画の各課で作ってもらう中身の書きぶりにも影響する話なので、十分議論を深めていただければと思います。あと、いかがでしょうか。

高梨委員

そのゴールというか、設定するところについて、町民の意見が入っているということがとても大事なので、アンケートのことや私達の声とかをそこに反映しているというのがどこかに見えるとよいと思いました。それが今回、SDGs のこの目標を書いてくださった時に何をもとにこれが書かれているのかというのが、少しわかりづらかったこともあるので、町民の声であったり、こういうところで意見を聞いています。というのが載るとよいと感じました。

臼井会長

ありがとうございます。随分、事務局の方へ宿題をたくさん出してしまったような気がしますが、仕方ないですね。いいものができるのがまずは大事だということで、よろしくお願ひします。一通り基本構想骨子案と、基本計画構成案についてはディスカッションできたかと思ひます。その他で何かありますでしょうか

(2) その他

事務局（大屋主任）

その他いくつかあります。まず、資料5、こちら第五次総合計画策定スケジュール案として作った資料です。現スケジュールというのが第1回審議会でお示ししたスケジュールでしたが、来年度と今の進行状況も踏まえ、新スケジュール案として出しました。このグレイアウトしているところが今審議会の部分ですが、令和5年度の2月の○が本日です。今年度に日程調整がつけばですが、3月にもう一度やらせていただきたい。こちら4月5月また連続としていますが、4月から6月の3ヶ月の間で2回予定したいと思っています。その2回目の部分でパブコメの案を確定させ、6月7月にかけてパブコメを掛け、その対応を含め8月に答申案の確定ができれば、答申をいただく。その後の流れとしては、9月議会の方に上程、そして議決いただければ、それをもって印刷等の作業に入り、年度末なのか、そのあたりでまた皆さまと第五次総合計画について説明させていただくという流れになります。あとは、第四次総合計画の振り返りも含めて、こちらはしなければいけない部分で、ここは入っていないのですが、来年度できれば5回、審議会の日程はまだファジーな部分がありますが、相談させていただきながら開催したいと思ひますので、皆さまどうぞよろしくお願ひいたします。

というのが今後のスケジュールで、次回の審議会のスケジュールについて相談させていただければと思ひます。まず、決めうちで申し訳ないのですが、3月7日木曜日の午前中、皆さまのご都合いかがでしょうか。

皆さま一旦、その日の9時半からで仮置きさせていただきます。

事務局（佐野課長）

翌日の3月8日に特別委員会が予定されています。審議会で議論させていただいた後、特別委員会で報告したいという話があります。

臼井会長

すみません。私が3月、もう既にダブルブッキングが発生しているというめちゃくちゃな状況になっていまして、その日は午後、福祉課の会議が既に入っており、7日に葉山町へは来るので、同じ日の午前中に会議ができるととても助かります。

事務局（大屋主任）

では、また改めて連絡させていただければと思います。よろしくお願いします。最後になりますが、前回の議事録修正かけたものをお配りしていますので、ご覧いただいて、来週ぐらいまでにご連絡いただいて、何もなければホームページの方で公開させていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。その他は、以上になります。

3 閉会

臼井会長

ありがとうございました。今日もたくさんいい議論ができました。事務局は大変かもしれませんが、どうぞ体を壊さない範囲でよろしくお願いします。今日はありがとうございました。

終 了